

クモ類

① 名古屋市におけるクモ類の概況

現在まで名古屋市で記録されたクモ類は、今回の調査の分を含めると、41 科 334 種になる。日本産のクモ類は、およそ 1,500 種（小野，2009）、愛知県産は現在 48 科 564 種（緒方，2013）なので、日本産の約 22.3%、愛知県産の約 59.2%にあたるクモ類が名古屋市に生息していることになる。

以下に、市内の地域ごとに、それぞれの状況を記述する。

東部地域（東部丘陵地）のクモ

名古屋市内はほとんどの地域が都市化され、クモの住む環境は狭められてしまった。その中であって、この東部地域は北には、東谷山を中心とした守山区志段味地区や小幡緑地、南には緑区の大高緑地など、丘陵地やそれに付随する湿地・ため池が残されていて、二次林から成る樹木も多い。そのため、生息するクモの種も比較的豊かであり、クリチャササグモなど市内では貴重なクモも見られる。なお、1977 年には、珍種ムロズミソレグモが天白区で記録されている。

その一部を例示すると、カネコトタテグモ、キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、ナルトミダニグモ、オオセンショウグモ、キヨヒメグモ、コンピラヒメグモ、ツノナガイソウロウグモ、ハラナガヒシガタヒメグモ、アシヨレグモ、ツメケシグモ、ジョロウグモ、マメズメオニグモ、シロオビトリノフンダマシ、アカイロトリノフンダマシ、スズミグモ、アオオニグモ、コガネグモ、ムツトゲイセキグモ、ゲホウグモ、ヤマシロオニグモ、サツマノミダマシ、クリチャササグモ、ウスイロヤチグモ、ヒゲナガツヤグモ、ヤドカリグモ、コハナグモ、ネオンハエトリ、ムツバハエトリ、マツモトハエトリなどである。

この地域は、現在まで確認されていないキジロオヒキグモなどの稀種が発見される可能性を残す地区である。

中央部地域（中央台地）のクモ

この地域のほとんどは市街化されている。そのため生息するクモ類の数も種数も年々少なくなっている。僅かに、市街化の波を逃れて残された名古屋城*、高蔵神社、熱田神宮の林*などは熱田台地の面影を残しており、都市部でのクモの安息場所となっている。*【例1：名古屋城内に住むクモ：20 科 55 種（緒方・須賀，1998～1999 調査）、例2：熱田神宮城内に住むクモ：30 科 109 種（緒方・須賀・柴田，2011～2013 調査）】これらの林には、キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、カネコトタテグモ、ワスレナグモ、ヤギヌマフクログモ、チビクロドヨウグモ、ナシジカレハグモなど希少種や分布の限られた種などが多く生息しているが、いずれも個体数は少ないか、一部は減少の一途をたどっている。

更に、昭和区にある興正寺の社寺林もクモ類の生息にとって重要な樹林であり、キシノウエトタテグモの住居は、ここを中心として昭和区・瑞穂区の一部に多く見られる。また、今回の

調査で、市内ではたいへん珍しいトゲグモが発見された。ただ、これらの地区も年々環境破壊が進み、クモ類の個体数は減少の一途をたどっている。

この地域で記録されたクモの一部を例示すると、ジグモ、ワスレナグモ、ダニグモ、サトヒメグモ、ゴマダラヒメグモ、ナナメケシグモ、ヨツボシサラグモ、ビジョオニグモ、ムツボシオニグモ、コガネグモ、スズミグモ、サガオニグモ、ナガズキンコモリグモ、カチドキナミハグモ、ヤマヤチグモ、ムナアカフクログモ、ヤギヌマフクログモ、ホンジロトンビグモ、ニッポンオチバカニグモ、オビボソカニグモ、コガタネオンハエトリ、タイリクアリグモなどである。

西部地域（沖積地）のクモ

この地域では、枇杷島緑地などの庄内川の河川敷に、草地なども残されていて、重要なクモの生息地となっている。そのほか、河口付近の少ない葦原は廃棄物や流木が散乱しているが、その中にカコウコモリグモが見られる。市内で唯一の産地であり、貴重である。また、名古屋港に近い公園の溝の中などには、移入種のマダラヒメグモやオダカユウレイグモなどが多く生息している。

なお、1995 年大阪府高石市や三重県四日市市で発見され、話題になったセアカゴケグモは 2010 年には名古屋市市内では確認されていなかったが、2014 年現在では港区・中川区を中心にごく普通に見られるようになった。過去に一頭だけ採集されたことがあるハイイロゴケグモは、その後、見つかっていない。

この地域に生息するクモの一部を列記すると、ジグモ、ワスレナグモ、オダカユウレイグモ、ヒラタグモ、コガネヒメグモ、マダラヒメグモ、クロケシグモ、ノコギリヒザグモ、ヨツコブヒメグモ、マルムネヒザグモ、セスジアカムネグモ、コガネグモ、ナガコガネグモ、イエオニグモ、カコウコモリグモ、フジイコモリグモ、ネコハグモ、ヤマトガケジグモ、ウラシマグモ、ムナアカフクログモ、ヤドカリグモ、ヨコフカニグモ、ネコハエトリ、シラヒゲハエトリなどである。

② 名古屋市における絶滅危惧種の概況

今回、名古屋市として、絶滅危惧種のリストに挙げたクモ類は、絶滅危惧ⅠA類（CR）6種、絶滅危惧ⅠB類（EN）3種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）8種、準絶滅危惧（NT）8種、それに情報不足（DD）4種である。名古屋市産のクモ類は、現在分っているものだけで303種（2014年現在）であるから、CR・EN・VU・NT・DDの合計29種は全体の約9.6%にあたる。

環境庁の「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 7 その他無脊椎動物（クモ形類、甲殻類等）」（平成26年）によると、絶滅危惧Ⅰ類（CR+EN）1種、絶滅危惧Ⅱ類（VU）6種、準絶滅危惧類（NT）5種、情報不足（DD）5種、合わせて17種が掲載されている（NTには名古屋市のリスト中のカネコトタテグモ、キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、ワスレナグモが含まれている）。以上、環境省の「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 7 その他無脊椎動物（クモ形類、甲殻類等）」（平成26年）に挙げられたクモは日本産クモ類（約1,500種）の約1.13%にあたる。この数値は今回取り上げた名古屋市の数値に比べると極端に少ない。現実には、全国的に見て危機に瀕しているクモ類は、この17種以外にまだまだ数多くあり、また、自然破壊の著しい大都市としての環境を考慮

に入れば、名古屋市の9.3%は妥当な数値だと考える。

名古屋市の絶滅危惧種のリストに取り上げた種の主な選定理由は次の三つに大別することができる。

その一つは、工事・開発・除草剤・農薬・殺虫剤などの影響により減少した（または減少しつつある）と思われるもので、次の種が該当する。

ワスレナグモ、カネコトタテグモ、キシノウエトタテグモ、キノボリトタテグモ、コガネグモ、トリノフンダマシ、オオトリノフンダマシ、カコウコモリグモ、テジロハリゲコモリグモ、ミナミコモリグモ、ヒゲナガツヤグモ、オビボソカニグモなど。

次に、全国的に、あるいは県内・市内において、広い範囲に分布する割には生息する個体数が少ないと考えられる種である。これらの種は、微妙な環境の変化で生息できなくなってしまうようである。言い換えれば、似たような環境でも微妙な違いで、生息可、不可が決定すると考えられる次のような種である。

アカイトトリノフンダマシ、シロオビトリノフンダマシ、ゲホウグモ、ヤギヌマフクログモ、ムツトゲイセキグモ、エビチャコモリグモ、ハヤテグモ、ハマキフクログモ、ギボシヒメグモ、ビジョオニグモ、トゲグモ、チビクロドヨウグモ、ナシジカレハグモなど。

さらに、限定された特殊な環境にしか生息できず、その環境が悪化したため減少した（またはその恐れがある）と考えられる種である。たとえば、湿地・ため池や河川河口部の葦原などは限定された環境であり、そこには生息域の限られたテジロハリゲコモリグモ（湿地）、ミナミコモリグモ（湿地）、カコウコモリグモ（河口部の葦原）など生活している。市内に点在する湿地・ため池・河口部の環境は、年々悪化しているし、湿地・ため池においては埋め立てによりなくなってしまった場所も多く、前記のクモの生息場所は狭められている。

なお、クリチャササグモは、もともと山地性のクモであり、高度1000m前後の場所では、近縁のササグモよりも多くなるといわれる（新海・高野，1987）。高地では普通であるが、低地の名古屋市内では、個体数も生息地も極めて少ないため取り上げた。

また、ムロズミソレグモ（スオウグモ科）は、現在まで山口県・京都府・兵庫県・島根県（隠岐島）で、それぞれ僅か1頭ずつ採集されただけの珍種であり、名古屋市では1977年に採集されている。近年（2010年）、奈良県で雌雄3頭が採集されたが、家屋内に住む以外、生態的に不明の点が多いので情報不足に掲載した。

（執筆者 須賀瑛文）

③ レッドリスト掲載種の解説

レッドリストに掲載された各クモ類について、種ごとに形態的な特徴や分布、市内の状況等を解説した。記述の項目、内容等は以下の凡例のとおりとした。準絶滅危惧種、情報不足種についても、絶滅危惧種と同じ様式で記述した。

【掲載種の解説（クモ類）に関する凡例】

【分類群名等】

対象種の本調査における分類群名、分類上の位置を示す目名、科名を各頁左上に記述した。目及び科の範囲と種の配列は原則として「日本産クモ類目録 Ver.2014R1」（谷川明男，2014：インターネット上にて公表）に準拠した。

【和名・学名】

対象種の和名及び学名を各頁上の枠内に記述した。和名及び学名は、原則として「日本産クモ類目録 Ver.2014R1」（谷川明男，2014：インターネット上にて公表）に準拠した。

【カテゴリー】

対象種の名古屋市におけるカテゴリーを各頁右上の枠内に記述した。参考として「第三次レッドリスト レッドリストあいち 2015」（愛知県，2015）の愛知県での評価区分、及び「レッドデータブック 2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 7 その他無脊椎動物（クモ形類、甲殻類等）」（環境省，2014）の全国でのカテゴリーも併記した。

【選定理由】

対象種を名古屋市版レッドデータブック掲載種として選定した理由について記述した。

【形態】

対象種の形態の概要を記述し、生態写真または標本写真を掲載した。

【分布の概要】

対象種の分布状況を記述した。また、本調査において対象種の生息が現地調査及び文献調査によって確認された地域について、各区ごとに着色して市内分布図として掲載した。

【生息地の環境／生態的特性】

対象種の生息環境及び生態的特性について記述した。

【現在の生息状況／減少の要因】

対象種の名古屋市における現在の生息状況、減少の要因等について記述した。

【保全上の留意点】

対象種を保全する上で留意すべき主な事項を記述した。

【特記事項】

以上の項目で記述できなかった事項を記述した。

【引用文献】

記述中に引用した文献を、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

【関連文献】

対象種の関連する文献のうち代表的なものを、著者、発行年、表題、掲載頁または総頁数、雑誌名または発行機関とその所在地の順に掲載した。

クモ類 <クモ目 ジグモ科>

ワスレナグモ *Calommata signata* Karsch**【選定理由】**

地中に縦穴の管状住居で生活するクモ。20 数年前までは、市内の神社仏閣、公園、古い民家などに、ごく普通に見られた種であったが、生息環境の悪化により急速に減少している。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

体長雌 13～18mm、雄 5～8mm。雌の背甲にある中窩は点状で深く黄褐色～淡褐色、第1脚は2～3脚に比べ極細。雄の体色は褐色～黒褐色ですべての脚が細く著しく小さい。

【分布の概要】**【市内の分布】**

以前には緑区、中区（名城公園）、西区（庄内緑地）、熱田区、中村区（中村公園）に生息していたが現在では庄内緑地と名城公園のみとなった。

【県内の分布】

愛知県内でも減少傾向にあり、採集例も少なくなった。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

韓国、中国。



ワスレナグモ（雌）

安城市、2011年11月26日、中根 翼 撮影

巣穴：西区庄内緑地、2014年8月30日、柴田良成 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

日光の当る比較的明るい草むら、芝生などに地中に縦穴を掘り、内部を糸で綴った管状の住居を造る。出入口は露出するか糸で閉じる。住居の内側は極めて細くて丈夫な糸で裏打ちされ、穴を中心として放射状に受信糸（触糸）を出すこともある。

【現在の生息状況／減少の要因】

本種は、地中に縦穴を掘り生活するため、地表面の掘削やコンクリート化により生息場所の消失が大きな減少の原因であると考えられる。加えて、トタテグモ類同様、除草剤や農薬の影響も考えられる。最近、公園や神社などでジグモの生息数が減少傾向にある現象も同じ原因ではないかと考えられる。

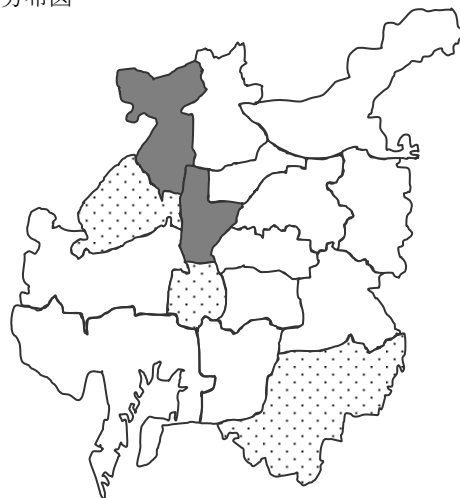
【保全上の留意点】

公園整備による樹木、芝生等には配慮し、少なくとも除草剤などの散布には注意する必要がある。

【関連文献】

小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.86. 東海大学出版会，秦野。
千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.20,p.164. 偕成社，東京。
八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.6. 保育社，大阪。

市内分布図



(執筆者 柴田良成)

クモ類 <クモ目 カネコッタテグモ科>

カネコッタテグモ *Antrodiaetus roretzi* (L. Koch)

カテゴリー

【選定理由】

崖地に多い地中性のクモである。崖地（法面）の改修によるコンクリート化や人為的な土地の攪乱、崩壊によって生息場所を失うことが多く、市内では激減している。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

体長雌 12～18mm、雄 9～13mm。背甲の中窩は縦向き。上顎の牙は上下に可動。胸板は長さとは幅がほぼ同じ、有毛だが前方に無毛の部分がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

以前は守山区、千種区、昭和区、中区、緑区に生息していたが現在では名古屋城敷地内だけになった。

【県内の分布】

海辺近く（海拔 1m）から高所（茶臼山：海拔 1200m）まで広範囲に分布するが、個体数は減少している。

【国内の分布】

本州の岩手県から岡山県まで局地的に分布する。関東地方、中部地方に多い。

【世界の分布】

北米。

【生息地の環境／生態的特性】

林床、草むら、崖地、人家や社寺の庭などの地中に管状住居を造り入り口には両開きの扉を付け、その中で生活する。扉の周辺にはコケや土を付けてカムフラージュしている。

【現在の生息状況／減少の要因】

公園整備、住宅建設、道路工事等に伴う崖地の人為的な改変ならびに石垣、コンクリート化により生息場所の消失が大きな要因である。また、除草剤、農薬散布の影響も考えられ市内では激減している。

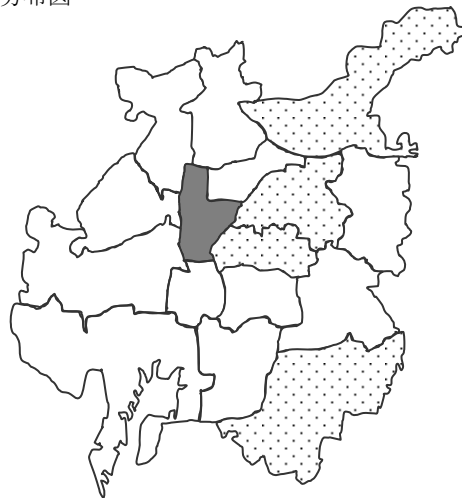
【保全上の留意点】

崖地を工事する際の注意が肝要であり生息地での除草剤、農薬等の散布には特に注意する必要がある。



カネコッタテグモ（雌）、及び 住居
住居：日進市、2010年12月2日、緒方清人 撮影

市内分布図



【関連文献】

小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.87. 東海大学出版会，秦野.
千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.18,p.162. 偕成社，東京.
八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.2. 保育社，大阪.

（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 トタテグモ科>

キシノウエトタテグモ *Latouchia typica* (Kishida)

カテゴリー

【選定理由】

片扉を付けた地中性のクモ。市内では、ほとんどが崖地に棲むため、崖地の破壊、コンクリートなどによる補強などの影響を受けて激減、絶滅の恐れが大である。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

体長雌 12～20mm、雄 10～15mm。背甲の中窩は横向き。頭胸部には疎らな毛がある。胸板にくぼみがある。

【分布の概要】

【市内の分布】

以前には名古屋市昭和区（八事興正寺境内、鶴舞公園）、千種区（覚王山）、瑞穂区（民家など）、天白区、中区（名古屋城敷地内）、熱田区（寺院など）、守山区に生息していたが現在ではいずれの生息地においても個体数が少なくなった。

【県内の分布】

岡崎市、犬山市、瀬戸市、豊田市等に分布する。

【国内の分布】

本州（山形県以南）、四国、九州。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

神社、仏閣、城、古い屋敷の敷地内によく生息している。崖地に横穴の管状住居を造り入口に片開きの扉を付ける。縦穴も作るが、市内ではほとんどが横穴に棲む。都市またはその周辺部に棲み、人里離れた山中に生息しない。扉に周辺のコケや土を運んで付着する。

【現在の生息状況／減少の要因】

造成整備工事や道路の改修等による崖地での掘削工事やコンクリート化が激しく、急速に生息場所が狭められ、激減している。特に、八事興正寺境内の減少は驚くばかりである。

また、除草剤や農薬散布等が影響を及ぼし減少に拍車をかけていると思われる。クモタケの寄生による被害も多少は考えられる。

【保全上の留意点】

崖地改修の際、工事の方法に注意すること。生息区域での農薬、除草剤等の散布に注意する必要がある。

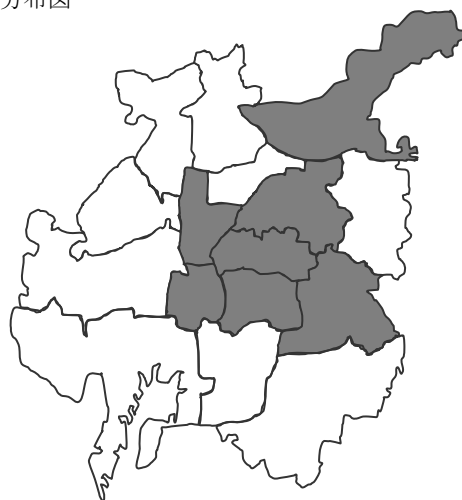
【関連文献】

小野展嗣（編），2009．日本産クモ類，p.91．東海大学出版会，秦野。
千国安之輔，1989．写真日本クモ類大図鑑，p.19,p.163．偕成社，東京。
八木沼健夫，1986．原色日本クモ類図鑑，p.3．保育社，大阪。



キシノウエトタテグモ（雌）、及び 住居扉
昭和区鶴舞公園、2015年1月26日、柴田良成 撮影
住居扉：同上、2014年11月11日、柴田良成 撮影

市内分布図



（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

ムツトゲイセキグモ *Ordgarius sexspinosus* (Thorell)**【選定理由】**

市内の確認できた生息地は1ヶ所で、個体数は少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 8～10mm。頭部背甲は濃褐色で2本の尖った突起が縦に並び、後方にも4突起が横に並ぶ。腹部背面は黒褐色で白い網目模様がある。その両肩は隆起、その上に小突起がいくつか見られる。後端にも4個の突起がある。雄は小さくて2mm。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区。

【県内の分布】

県内でも確認された分布地は僅かである。個体数は少ないためか、見つけにくい、まだ発見される可能性はある。

【国内の分布】

本州（関東以南）、四国、九州、南西諸島。

【世界の分布】

ビルマ、インドネシア、インド、韓国、中国。

【生息地の環境／生態的特性】

昼は広葉樹の葉の裏に潜んでいる。夜、枝や葉に簡単な糸を引き張り、そこから第2脚の先端に粘球を糸で釣り下げ、それを投げ縄のように回転させ、蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない希産種であるが、生息適地の開発による減少も考えられる。

【保全上の留意点】

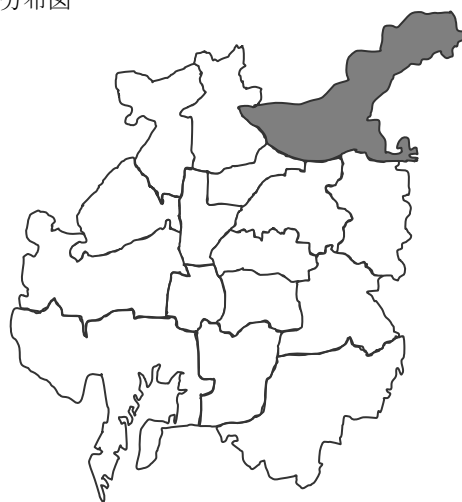
生息環境（二次林）の確保。特に市内分布確認地の環境を変えないような努力が必要である。



ムツトゲイセキグモ（雌）

守山区大森、1998年9月26日、緒方清人撮影（小笠原幸恵採集）

市内分布図

**【関連文献】**

- 千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.83,p.217. 偕成社, 東京.
 八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.112. 保育社, 大阪.
 小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 コモリグモ科>

カコウコモリグモ *Pardosa nojimai* Tanaka**【選定理由】**

河口付近の内海に面した塩性葦原に生息するため、護岸工事や環境の悪化によって激減、絶滅の恐れが大である。市内での生息地は少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌雄 5～7mm。雄の頭胸部は黒褐色。腹部背面は茶褐色で、褐色の心臓斑が顕著である。雌は背甲、腹部とも茶褐色。雌雄とも歩脚は褐色で各節に長い刺を要する。

【分布の概要】**【市内の分布】**

港区で記録された。

【県内の分布】

田原市汐川河口、豊橋市紙田川河口で記録されている。刈谷市境川河口にも生息していたが、ここでは近年確認されていない。

【国内の分布】

岡山県岡山市の標本を模式とし新種記載された(田中, 1998)。現在は静岡県、三重県、大阪府、島根県、熊本県で記録されている(新海ほか, 2012)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

海岸や河口付近の塩性葦原に限って棲む。同じ葦原でも海岸以外には生息していない。成体は5～8月にかけて見られ、葦原内を素早く動き回る。雌は卵のうを糸器に着けて徘徊する。同じ環境にはクロベンケイガニなどカニ類も多数生息している。

【現在の生息状況／減少の要因】

市内では、港区稲永の庄内川左岸の河口部の塩性葦原に棲むが、生息地域は狭く限られている。同じ環境でも河口の上流部には生息していない。近年、護岸補強工事の影響で葦原が減少した。また、発泡スチロール、ビニール、プラスチックなど多量のゴミが蓄積し、環境悪化が著しい。その影響で個体数は激減している。

【保全上の留意点】

護岸補強工事の際には、十分な配慮が必要である。塩性葦原を保全すると同時に、環境美化に努める必要がある。

【引用文献】

Tanaka, H., 1998. A New Species of the Genus *Pardosa* (Araneae: Lycosidae) from Japan. *Acta Arachnologica*, 47(2): 101-103.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2012. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

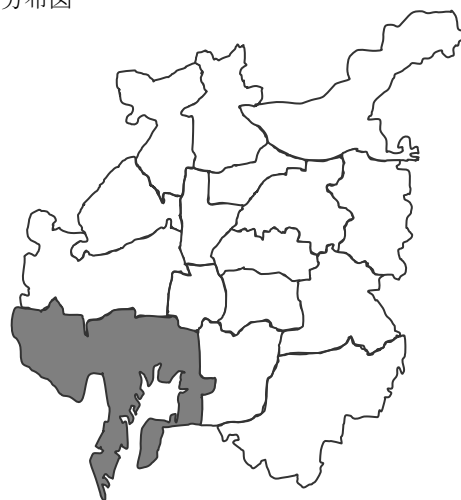
小野展嗣(編), 2009. 日本産クモ類, p.245. 東海大学出版会, 秦野.



カコウコモリグモ(雌)

港区野跡、2013年6月10日、緒方清人 撮影

市内分布図



(執筆者 緒方清人)

クモ類 <クモ目 コモリグモ科>

デジロハリゲコモリグモ *Pardosa yamanoi* Tanaka et Suwa

カテゴリー

【選定理由】

徘徊性のクモで、開発にともなう湿原の減少や環境悪化で、近年激減した。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠA類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌雄とも 5～7mm。雄の頭胸部は濃茶褐色で中央と縁は白い毛で覆われる。腹部背面は濃茶褐色で中央に白色の縦斑があり、第1脚の脛節に多数の白毛を生じる。雌は背甲・腹部とも茶褐色で、腹部に多数の白斑がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区上志段味と天白区島田の極限られた湿地に生息する。天白区八事天白峡湿地では、1978年5月3日に永井均氏により雌雄各1頭が採集された。この記録が県内初記録である(田中, 1986)。その後、1990年代までは生息していたが、湿地の環境悪化とともに個体数は減少し、現在は生息していない。

【県内の分布】

日進市、岡崎市、新城市に分布する。豊川市では土地開発により湿地が消滅し、絶滅したと思われる。

【国内の分布】

岡山県鹿久居島の標本を模式とし新種記載された(Tanaka, 1986)。現在は秋田県、東京都、神奈川県、長野県、岐阜県、三重県、大阪府、岡山県、徳島県、長崎県で記録されている(新海ほか, 2012)。

【国内の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

湿原に生息する。5～7月にかけて成体になり、雌は7～8月にかけて卵のうを糸器につけて徘徊する。幼体で越冬する。

【現在の生息状況／減少の要因】

市内では、守山区上志段味(東谷湿地)と天白区島田(島田湿地)に生息する。天白区八事天白溪湿地は、湿地周辺の樹木や草本が繁茂し、環境が著しく悪化したことにより湿地は消滅した。2008年6月15日と2014年7月22日の調査でも発見できず、絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

周辺部の環境保全と管理が望まれる。また、日当たりの良い湿地を好む傾向が強いので、周辺からの木本類や草本類を速やかに取り除く等多方面の対策が急務である。

【引用文献】

Tanaka, H., 1986. Descriptions of Three New Spiders of the *Pardosa laura* Complex (Araneae: Lycosidae) based on their Morphology and Ecology. *Acta Arachnologica*, 34(2):49-60.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2012. CD 日本のクモ. 自刊.

【関連文献】

小野展嗣(編), 2009. 日本産クモ類, p.241, pl.610. 東海大学出版会, 秦野.

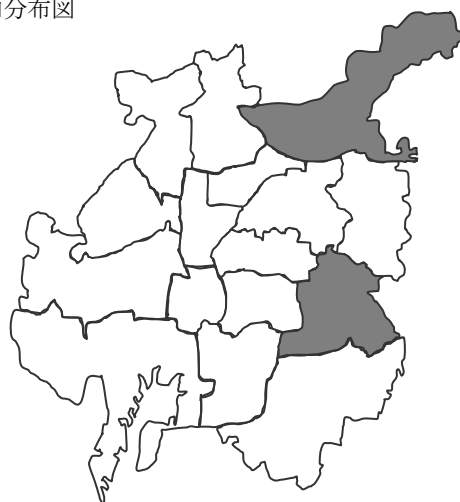
新海栄一, 2010. 日本のクモ, p.67, 文一総合出版, 東京.



デジロハリゲコモリグモ (雄)

守山区上志段味, 2009年4月16日, 緒方清人 撮影

市内分布図



(執筆者 緒方清人)

クモ類 <クモ目 トタテグモ科>

キノボリトタテグモ *Conothele fragaria* (Dönitz)

カテゴリー

【選定理由】

特に神社仏閣などの大木の樹皮などに生息。どこでも個体数が少なく減少しつつある。特に地表に近いところに住居を造った個体は除草剤の被害に遭うことも多い。

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	準絶滅危惧

【形態】

体長雌 10～12mm、雄 8～10mm。背面の中窩は大型で、体も太く頑丈である。

同属他種との区別はやや困難。体長 40mm 内外。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区、中区、昭和区（八事興正寺）、熱田区（熱田神宮）、千種区（東山公園）。

【県内の分布】

低地から海拔 600m の山地まで広く分布しているが、各生息地とも個体数は少ない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、南西諸島、伊豆諸島、小笠原父島。

【世界の分布】

日本固有種。



キノボリトタテグモ（雌）、住居扉

千種区東山公園、2015年1月25日、柴田良成 撮影

住居扉：熱田区熱田神宮、2012年1月23日、柴田良成撮影

【生息地の環境／生態的特性】

主に大木の樹皮上、岩上、塀、石灯籠や記念碑などの表面に長さ 2～3cm の袋状の住居を造り、下を向いた出入口に片開きの扉を付ける。扉の上を通る獲物を住居内に引きずり込む。扉や袋には付近のコケ、樹皮、土などを運んできて付けている。

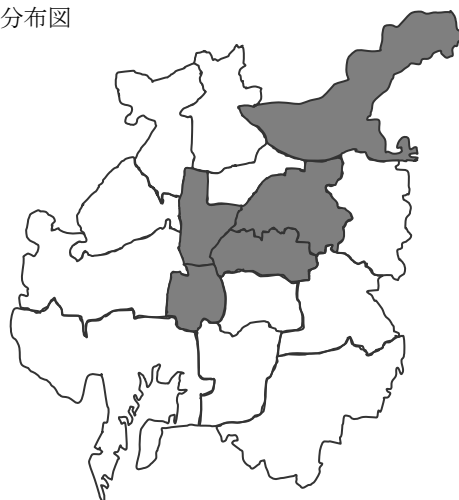
【現在の生息状況／減少の要因】

市内では、本種の住みかである神社仏閣で、古木、古い墓石、灯籠などが少なくなった。ほかに、照度、通風、湿度なども微妙に影響するようである。

【保全上の留意点】

社寺林等の保全が必要である。また、生息地では、農薬、除草剤の散布には要注意。

市内分布図



【関連文献】

小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.91. 東海大学出版会，秦野.
千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.19,p.163. 偕成社，東京.
八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.4. 保育社，大阪.

（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コモリグモ科>

ミナミコモリグモ *Piratula meridionalis* (Tanaka)**【選定理由】**

徘徊性のクモで、湿原や池沼など湿潤地に生息する。開発にともなう生息地の減少や環境悪化で近年激減した。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧ⅠB類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌雄とも 4～6mm、頭胸部は茶褐色で中央に本属特有の Y 字型の斑がある。腹部背面は濃茶褐色で 3～4 対の白斑がある。4 脚の各節に濃茶褐色の環がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区上志段味、天白区島田、緑区大高の極限られた湿地や湿潤地に生息する。

【県内の分布】

弥富市、東海市、日進市、長久手市、豊明市、知立市、豊田市、岡崎市、豊橋市、新城市、北設楽郡設楽町等に分布する。

【国内の分布】

本州、四国、九州 (Tanaka, 1988)。

【世界の分布】

韓国、中国。



ミナミコモリグモ (雌)

天白区島田湿地 2014 年 6 月 17 日 緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

湿原や湿潤地を徘徊している。5～7 月ごろに成体になる。雌は 8～10 月ごろに白色の卵のうを糸器につけて徘徊する。ふ化した子グモは 1 週間ほど親の背中にしがみつき、その後、分散し独り立ちし、幼体で越冬する。

【現在の生息状況／減少の要因】

守山区上志段味の湿地は、周辺から植物が侵入し、年々環境が悪化している。天白区島田湿地は保全区域に指定されているので、個体数は維持されると思われる。緑区大高緑地は湿潤地である。しかし、どの生息地においても個体数は極めて少ない。天白区八事天白溪湿地にも生息していたが周辺の樹木類や草本類が繁茂し、湿地は消滅した。2008 年 6 月 15 日と 2014 年 7 月 22 日に調査したが、発見できずテジロハリゲコモリグモと同じく絶滅したと思われる。

【保全上の留意点】

湿地と後背地の環境を保全し、乾燥化に名ならないように水資源を確保する。同時にゴミ対策や湿地性以外の植物の侵入を防ぐなど、多方面の対策が必要である。

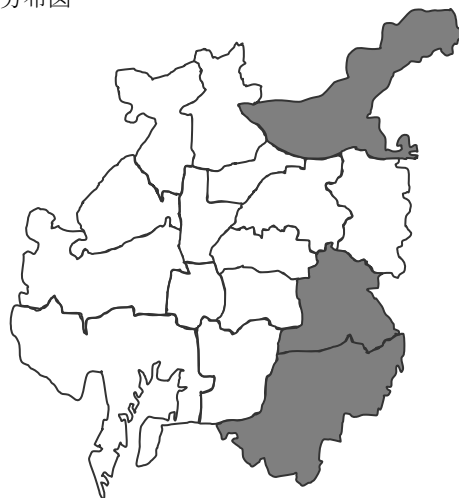
【引用文献】

Tanaka, H., 1988. Lycosid Spiders of Japan I. The Genus *Pirata* Sundevall. *Acta arachnologica*, 36(1):33-77.

【関連文献】

小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類, p.225, p.608. 東海大学出版会, 秦野.
千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.19, p.163. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.3. 保育社, 大阪.
新海栄一, 2010. 日本のクモ, p.67. 文一総合出版, 東京.

市内分布図



(執筆者 緒方清人)

クモ類 <クモ目 キシダグモ科>

ハヤテグモ *Perenethis fascigera* (Bösenberg et Strand)**【選定理由】**

徘徊性のクモで、河川敷や草原などに生息し、まれに公園や人家の庭などからも発見される。近年、生息域の環境悪化により激減した。2000年の記録が最後である。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧I B類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 10～12mm、雄 9～11mm。頭胸部は淡褐色で中央部は濃茶褐色で両縁は白色。腹部背面は淡褐色で中央部は赤褐色もしくは黄褐色で両縁は白色。中央から後方にかけて波形模様となる。胸板は黄褐色で両側は淡黒色。歩脚は各節黄褐色だが蹠節や附節は濃い黄褐色となる。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区で確認されたが、その後は確認されていない。

【県内の分布】

常滑市、日進市、豊橋市で記録されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州（新海ほか、2012）。

【世界の分布】

中国、韓国。



ハヤテグモ（雄）

緑区鳴海町、2000年7月3日、緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

市街地の林縁部や草地に生息する。6～8月にかけて成体になる。雄は捕獲した獲物を雌にプレゼントする（板倉，1999）。雌は7～8月ごろに産卵し、卵のうを口器にくわえて保護する。幼体で越冬する。

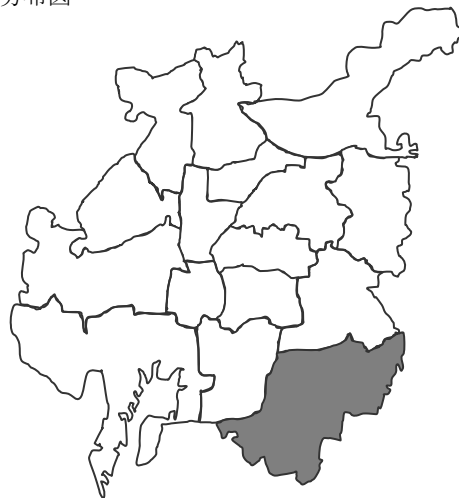
【現在の生息状況／減少の要因】

唯一、緑区の生息地は住宅地になり消滅した。その後、本市からは記録されていない。徘徊性で見付けにくい在今后、河川敷や草地など本種に適した環境が残されていたら、発見される可能性はある。

【保全上の留意点】

宅地や工場などの土地開発の際、生息域の環境保全が必要である。

市内分布図

**【引用文献】**

板倉泰弘，1999．苦節9年，ハヤテグモの生息環境と婚姻給餌発見まで．*Kishidaia*, 76:30-33.
新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生，2012．CD 日本のクモ．自刊．

【関連文献】

小野展嗣（編），2009．日本産クモ類，p.220,pl.606．東海大学出版会，秦野．
千国安之輔，1989．写真日本クモ類大図鑑，p.106,p.273．偕成社，東京．
八木沼健夫，1986．原色日本クモ類図鑑，p.175．保育社，大阪．
新海栄一，2010．日本のクモ，p.81，文一総合出版，東京．

（執筆者 緒方清人）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

シロオビトリノフンダマシ *Cyrtarachne nagasakiensis* Strand

【選定理由】

もともと個体数の少ない種である。さらに、近年、開発等により生息適地が狭められ急激に減少している。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

雌、体長 5～8mm、雄、1～2mm。頭胸部は赤褐色、腹部背面の地色は黒褐色～茶褐色、その最広部付近を横に黄白色～白色の帯があり、最後部は淡黄色となる。また、頭胸部は赤褐色であるが、腹部は灰褐色の個体（*nigra* type）もあり、色彩にはいくつかの色彩変異がありシロオビ型、クロ型などがある。

【分布の概要】

【市内の分布】

守山区、千種区、緑区で記録がある。

【県内の分布】

豊田市、岡崎市等の記録が多い。

【国内の分布】

本州、四国、九州、伊豆諸島、薩南諸島、トカラ列島、奄美諸島、沖縄諸島、八重山諸島。

【世界の分布】

韓国、中国。

【生息地の環境／生態的特性】

昼は、ススキや広葉樹の葉の裏に脚を縮めて止まっている。夜間、草間や樹間に同心円状の水平円網を張り活動する。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない種である上、市内では、草原等生息適地の減少が拍車を掛けている。また、管理地等での農薬等の散布の影響も大きい。

【保全上の留意点】

開発時、ススキ草地や疎林を残すなどの配慮が必要である。また、農薬、除草剤等の散布には注意する必要がある。

【特記事項】

従来、クロトリノフンダマシ（*C. nigra* Yaginuma）と呼ばれていたものは本種の色彩変異（*nigra* type）で syn. とされた（Tanikawa, 2001）。

【引用文献】

Tanikawa, A., 2001. Two new synonymies of the spider genus *Cyrtarachne* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnologica*, 50(1):87-89.

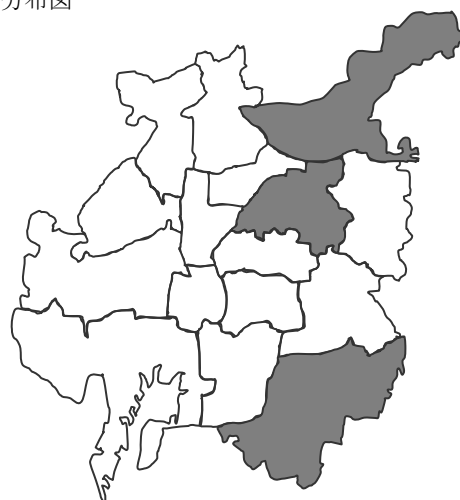
【関連文献】

小野展嗣（編），2009．日本産クモ類，p.428．東海大学出版会，秦野．
千国安之輔，1989．写真日本クモ類大図鑑，p.82,p.216．偕成社，東京．
八木沼健夫，1986．原色日本クモ類図鑑，p.110．保育社，大阪．



シロオビトリノフンダマシ（雌）
千種区平和公園、2014年7月29日、柴田良成 撮影

市内分布図



（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

アカイロトリノフンダマシ *Cyrtarachne yunoharuensis* Strand**【選定理由】**

もともと個体数が少ない種である。その上、市内では開発等に伴い生息適地が減少、個体数もますます減少している。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 4.5～7.0mm、雄 1.5～2.0mm。頭胸部背甲は黄褐色。腹部背面は赤褐色に白斑、その最広部の左右に1対の黒点がある。また、腹部背面が黒色の個体（アカイロ型）、黒色で後方部が暗赤色の個体（ソメワケ型）なども見られる。いずれにしても腹部の色彩には変異が多い。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区、名東区、千種区に生息する。個体数が少ないため観察、採集記録は数例である。

【県内の分布】

犬山市、瀬戸市、豊田市（旧稲武町）等県北部での記録が多い。県南部の記録は少ないが、渥美町、田原市等で記録はある。

【国内の分布】

本州、四国、九州、薩南諸島。

【世界の分布】

中国。

【生息地の環境／生態的特性】

ススキ草原、広葉樹林に棲み、昼はそれらの葉裏に静止している。夕方から活動を始め、同心円状の水平円網を張り、主として蛾の仲間を捕らえる。

【現在の生息状況／減少の要因】

もともと個体数の少ない種であるが、開発による生息適地の減少や農薬等の使用が減少に拍車を掛けている。

【保全上の留意点】

開発に際しては、ススキ草原（周辺部の環境も含め広く）など生息場所を残すこと。また、管理地などでの除草剤や農薬などの散布に注意する必要がある。

【特記事項】

従来ソメワケトリノフンダマシ（*C. induta* Yaginuma）と呼ばれていたものは、本種の色彩変異の一つである（Tanikawa, 2001）。

【引用文献】

Tanikawa, A., 2001. Two new synonymies of the spider genus *Cyrtarachne* (Araneae: Araneidae). *Acta Arachnologica*, 50(1):87-89.

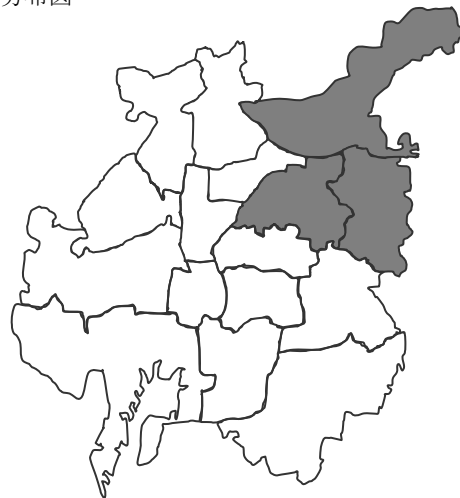
【関連文献】

小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.428. 東海大学出版会，秦野.
千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.82,p.216. 偕成社，東京.
八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.110. 保育社，大阪.



アカイロトリノフンダマシ（雌）
千種区平和公園、2014年7月29日、柴田良成 撮影

市内分布図



（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

トゲグモ *Gasteracantha kuhli* C. L. Koch**【選定理由】**

市内では初に観察された大変珍しいクモ。分布は限られている。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 6.0～8.0mm、雄 3.0～4.0mm。雌の腹部はキチン化していて硬く、3対の黒色の刺がある。腹部背面は白色で黒い斑紋がある。腹部には3対の刺はなく、1対の突起があり頭部と胸部の幅はほぼ等しい。腹部背面の体色や模様は雄に類似。垂直円網を張り周囲の糸には小さな糸の塊が点々と付けられることが多い。

【分布の概要】**【市内の分布】**

昭和区八事山散策路で観察、採集（2014年7月22日）。市内初記録。

【県内の分布】

三河部の山地、豊田市（旧足助町、旧稲武町）、北設楽郡設楽町、新城市（旧新城市）、豊橋市などに僅かな記録がある。

【国内の分布】

本州、四国、九州、伊豆諸島、奄美諸島。

【世界の分布】

インド、フィリピン、台湾、韓国、中国。

【生息地の環境／生態的特性】

もともと山地の樹間に垂直円網を張るクモ。市街地の社寺林では珍しい。

【現在の生息状況／減少の要因】

市内における観察例・採取例なく、今回初。個体数も多くない。

【保全上の留意点】

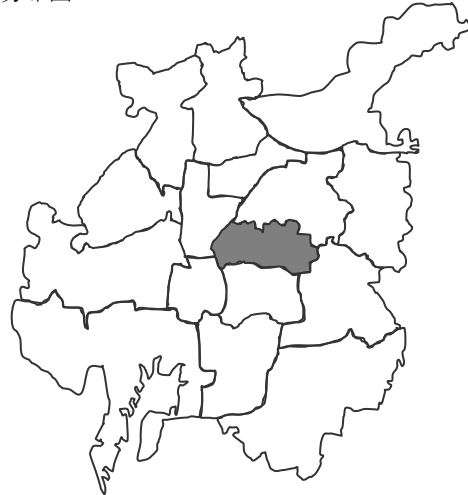
緑地公園内の樹林帯、主に落葉広葉樹林の保全、保護に努める必要がある。



トゲグモ（雌）

昭和区八事、2014年7月22日、筒井朋子 撮影

市内分布図

**【関連文献】**

小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.429. 東海大学出版会，秦野.
 千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.83,p.217. 偕成社，東京.
 八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.111. 保育社，大阪.
 新海栄一，2006. 日本のクモ，p.228. 文一総合出版，東京.

（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

ゲホウグモ *Poltys illepidus* C. L. Koch**【選定理由】**

市内での分布は局地的で、個体数も少ない。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

雌体長 12～18mm。背甲は赤褐色、腹部背面は黒色で両肩に1個ずつの大きな隆起があり、ほかに多くの小突起がある。腹部の形態は個体によって変異が大きい。雄は、4～6mm。

【分布の概要】**【市内の分布】**

東部地区の千種区、名東区、守山区に生息している。都市公園やその付近の住宅の庭などに多く、分布的にみて不明の点が多い。

【県内の分布】

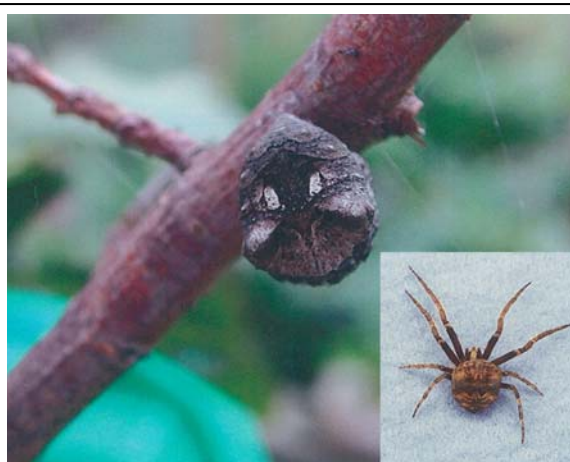
豊田市、豊川市（旧市域、旧音羽町）等に分布する。

【国内の分布】

本州、四国、九州、南西諸島。

【世界の分布】

インド、フィリピン、中国、オーストラリア。



ゲホウグモ（雌）

左：名東区猪高町、2003年8月31日、家股幸子 撮影

右下：知多郡武豊町老町田湿地、1999年8月8日、原穰 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

昼は脚を縮めて枯れ枝などの先端に止まっていることが多い。この場合、枯れた木の芽に似ていて見つけにくい。夜は樹間などに円網を張り活動する。

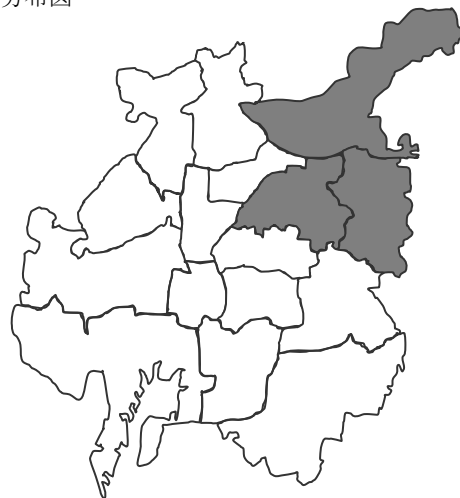
【現在の生息状況／減少の要因】

採集例は少ない。近年、名東区の都市公園を中心とした生息地が確認されている。しかし、生息地は局地的で、生態的にも不明の点が多い。

【保全上の留意点】

都市公園等における殺虫剤、除草剤の散布に注意する必要がある。

市内分布図

**【関連文献】**

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.81, p.215. 偕成社, 東京.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.117. 保育社, 大阪.

小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野.

(執筆 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 コモリグモ科>

エビチャコモリグモ *Arctosa ebicha* Yaginuma**【選定理由】**

徘徊性のクモで、大型のコモリグモである。河川敷、湿原、草原などに生息するが個体数は少ない。市内での記録は2ヶ所である。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	絶滅危惧ⅠB類
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 11～13mm、雄 9～12mm。頭胸部と歩脚は濃茶褐色。腹部背面は茶褐色で心斑は褐色。全身に黒毛を生じる。第1跗節には長毛が2本あり、脛節下面には短い刺が3対ある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

天白区八事天白溪湿地に生息していたが、環境悪化で湿地が消滅し絶滅した。現在は西区庄内川河川敷が唯一の生息地である。

【県内の分布】

豊田市、刈谷市、知立市、岡崎市、安城市等から記録されているが、土地開発で絶滅した地域が多い。また、生息地においても個体数は非常に少ない。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

韓国、中国。

【生息地の環境／生態的特性】

主に草原を徘徊しているが、石の下や土の窪みなどに潜んでいることもある。9～11月にかけて成体になる。多くのコモリグモの雌は、卵のうを糸器につけて徘徊するが、本種は卵のうを糸器につけてはいるが、地中に穴を掘って潜む。

【現在の生息状況／減少の要因】

西区庄内緑地が唯一の生息地である。1990年ごろまでは、天白区八事天白峡湿地に生息していたが、周辺の本木類や草本類が茂り、湿地は消滅した。2008年と2014年の調査でも発見されず、絶滅したと思われる。今後、生息地に適した環境が残されていたら、発見される可能性はある。

【保全上の留意点】

河川工事や土地開等による生息域での環境悪化や、農薬、除草剤等の散布にも注意する必要がある。

【関連文献】

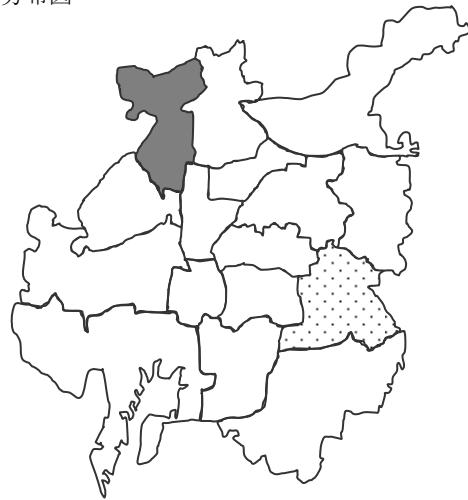
小野展嗣（編），2009．日本産クモ類，p.234,pl.609．東海大学出版会，秦野．
千国安之輔，1989．写真日本クモ類大図鑑，p.111,p.240．偕成社，東京．
八木沼健夫，1986．原色日本クモ類図鑑，p.158．保育社，大阪．
新海栄一，2010．日本のクモ，p.61．文一総合出版，東京．



エビチャコモリグモ（雌）

天白区八事天白溪、1986年6月28日、緒方清人 撮影

市内分布図



（執筆者 緒方清人）

クモ類 <クモ目 ササグモ科>

クリチャササグモ *Oxyopes licenti* Schenkel**【選定理由】**

山地に多いクモ。県内には広く分布するが、市内では生息適地が少なく注目に値する。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

ササグモに似ているが、それよりも小型で全体が黒っぽく、外雌器は明らかに違う。雌の体長7～9mm、雄は6～8mm。背甲は黒褐色で中央に正中条斑がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

千種区、天白区、名東区、守山区。

【県内の分布】

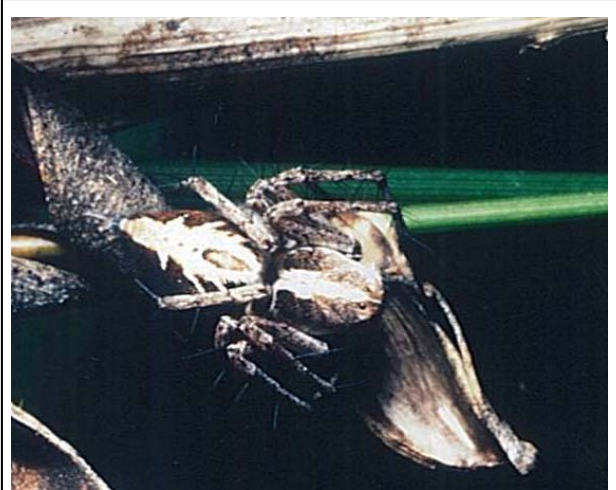
豊明市、豊田市（旧豊田市、旧下山村）、岡崎市、豊川市（旧音羽町）等に分布する。

【国内の分布】

本州、九州。

【世界の分布】

韓国、中国、ロシア。



クリチャササグモ（雌）

名東区猪高町、1988年5月18日、緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

二次林やスギの植林地の中や周辺に棲み、ピョンピョンと飛び跳ねる。

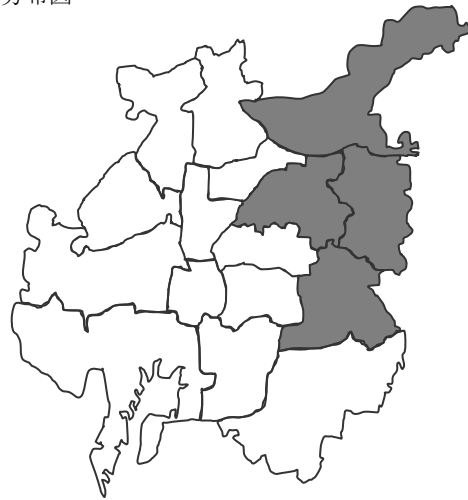
【現在の生息状況／減少の要因】

市内東部地域の一部に僅かに分布する。もともと、都市部には生息適地は少ない。

【保全上の留意点】

生息地付近の環境を保全する。また、殺虫剤や除草剤の散布に注意する必要がある。

市内分布図

**【関連文献】**

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.117, p.247. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.157. 保育社, 大阪.
小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 フクログモ科>

ヤギヌマフクログモ *Clubiona yaginumai* Hayashi**【選定理由】**

愛知県内では豊田市などで記録はあるが、いずれも雄であり、名古屋市内での雌の記録は注目に値する。特に、市内での生息適地は少ないので貴重である。

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

雌の体長は5mm、雄は4.5mmある。雌、雄ともに淡黄色で斑紋もなく特徴のないフクログモである。雌の外雌器周辺の模様（写真左下）と雄の触肢の大きな生殖球が特徴である。

【分布の概要】**【市内の分布】**

熱田区の熱田神宮で雌が確認された。

【県内の分布】

豊田市（旧市域、旧足助町）、新城市（旧鳳町）に記録（いずれも雄）がある。

【国内の分布】

全国的に見ても少ないクモである。

【世界の分布】

台湾。



ヤギヌマフクログモ（雌） 左下：外雌器と周辺の模様
熱田区熱田神宮、2001年8月5日、須賀瑛文 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

平地の草間に生息するといわれている。市内での生息場所は二次林内の下草付近である。

【現在の生息状況／減少の要因】

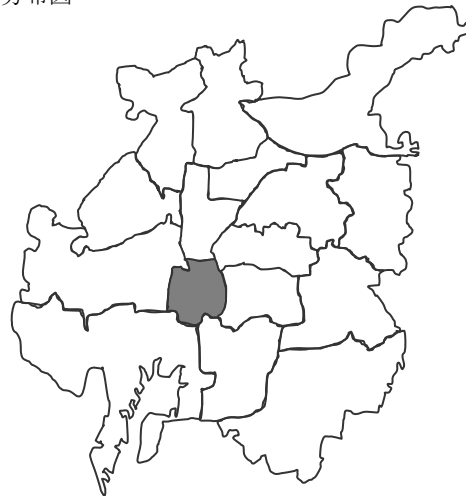
熱田神宮の立ち入り禁止区域に生息しているため、将来にわたって生息できる可能性が残されている。

元来個体数の少ない種ではないかと考えられるが、開発による生息適地の減少も理由の一つであろう。

【保全上の留意点】

二次林やその下草の保護、ならびに生息場所付近での除草剤や殺虫剤の使用に注意する必要がある。

市内分布図

**【関連文献】**

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.126, p.257. 偕成社, 東京.
小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 ネコグモ科>

オビジガバチグモ *Castianeira shaxianensis* Gong**【選定理由】**

徘徊性のクモで、河川敷や草地などに生息する。本市では緑区で記録された。その後は記録されていないが、市内の河川には生息地が残されている可能性が高いので、確認に努めたい

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 7～8.7 mm、雄 6.5～7mm。頭胸部は灰黒色。腹部背面は灰色地に黒色の太い条がある。上顎の前牙堤に 3 歯、後牙堤に 2 歯がある。4 脚の各節は淡褐色で腿節に黒色の縦条がある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区鳴海町の記録が唯一のもので、1999 年 5 月 25 日の記録である。その後、記録されていない。

【県内の分布】

常滑市、半田市、豊明市、知立市、豊田市、岡崎市、豊川市、豊橋市。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

中国・韓国。



オビジガバチグモ（雌）

常滑市常滑 2011 年 6 月 15 日、緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

草地の地上を徘徊し、一見するとアリに見間違う。6～8 月にかけて成体になる。和名の由来は昆虫のジガバチに似ているので付いた。

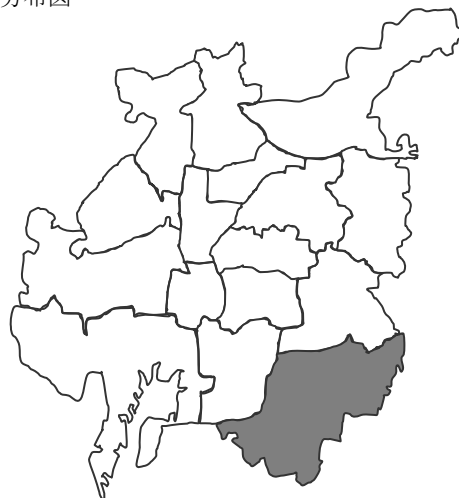
【現在の生息状況／減少の要因】

緑区鳴海町の唯一の生息地は住宅地になり、絶滅した。本種に適した生息環境が確認されれば発見される可能性が高い。例えば天白川や日光川などの河川敷は適した環境といえる。

【保全上の留意点】

生息環境を保全し、農薬や除草剤等の散布には注意する必要がある。

市内分布図

**【関連文献】**

小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.234,pl.609. 東海大学出版会，秦野.
千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.111,p.240. 偕成社，東京.
八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.158. 保育社，大阪.
新海栄一，2010. 日本のクモ，p.61，文一総合出版，東京.

（執筆者 緒方清人）

クモ類 <クモ目 カニグモ科>

オビボソカニグモ *Xysticus trizonatus* Ono

カテゴリー

名古屋市2015	絶滅危惧Ⅱ類
愛知県2015	絶滅危惧Ⅱ類
環境省2014	リスト外

【選定理由】

徘徊性のクモで、主に山林から都市周辺の神社、仏閣、城などの樹幹に棲む。普段は樹皮のすき間に潜んでいるので発見されにくく、採集、観察例の少ない種である。

【形態】

体長雌 7～8mm、雄 5～6mm。頭胸部の中窩は淡褐色、両縁は茶褐色。後方に1対の頃色斑がある。腹部背面は赤褐色で中央に数対の淡褐色の斑があり、中央から末端にかけて3～4本の黒筋がある。第1・2脚の脛節と蹠節に太い刺を生じる。胸板にくぼみがある。

【分布の概要】

【市内の分布】

中区に生息している。

【県内の分布】

豊田市、岡崎市、安城市、豊橋市、豊根村等に分布する。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。青森県陸奥市の標本を模式とし、1988年に新種記載された(小野, 1988)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

主に松を好み、樹幹の窪みや樹皮下に潜んでいるので見つけにくく、観察記録は非常に少ない。松のコモ巻きはマツカレハの幼虫を駆除する目的で、立冬のころに樹幹に巻かれ、翌春に取り外す。取り外す際に、越冬個体がしばしば発見される。落葉層からも、幼体が時々発見される。

【現在の生息状況／減少の要因】

中区名古屋城内の松で発見されたのが、唯一の記録である。もともと個体数の少ない種と思われる。松の葉を害するマツカレハの駆除を目的とするコモ巻きは、取り外した後に焼却される。その際に、越冬個体が被害を受けている可能性が考えられる。

【保全上の留意点】

農薬散布は極力避けるべきである。また、松のコモ巻き内からも越冬個体が発見されるので、取り外しの際は害虫と益虫を区別することが望ましい。

【引用文献】

Ono, H., 1988. A Revisional Study of the Spider Family Thomisidae (Arachnida, Araneae) of Japan. *National Science Museum monographs*, 5:1-252.

【関連文献】

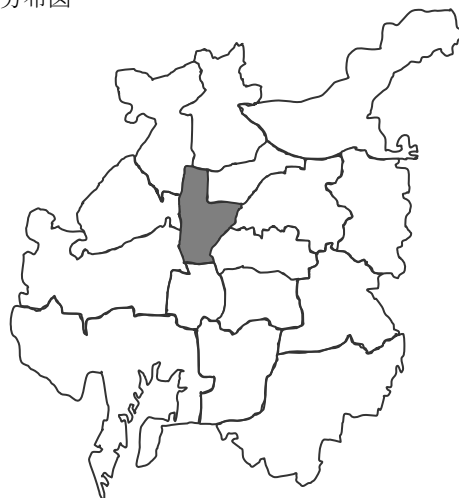
小野展嗣(編), 2009. 日本産クモ類, p.515, pl.635. 東海大学出版会, 秦野.
千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.145, p.273. 偕成社, 東京.
新海栄一, 2010. 日本のクモ, p.258, 文一総合出版, 東京.



オビボソカニグモ (雌)

中区名古屋城、1998年9月23日、緒方清人 撮影

市内分布図



(執筆者 緒方清人)

クモ類 <クモ目 ヒメグモ科>

ギボシヒメグモ *Chikunia albipes* (S. Saito)**【選定理由】**

造網性のクモで山林に棲む。県内での分布は主に三河地方なので、名古屋市での生息は注目に値する。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 2.5～3.5mm、雄 1.5～2.0mm。頭胸部は橙で眼域は黒褐色。腹部は角のとれた三角形をし、橙色で両肩と末端が黒い。色彩変異があり、全身が黒色の個体もある。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区に生息している。

【県内の分布】

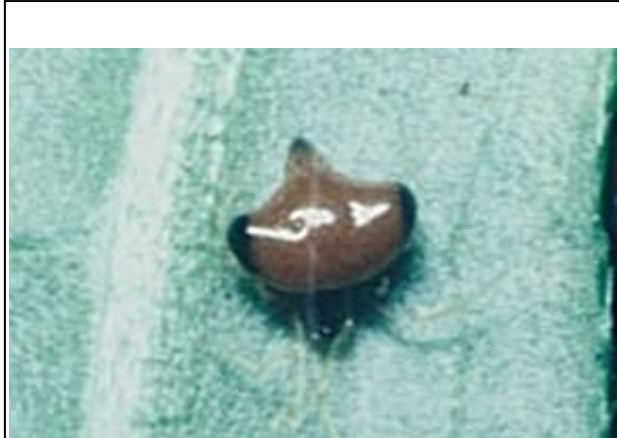
設楽町、豊田市（旧稲武町、旧下山村）等に分布する。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、南西諸島。

【世界の分布】

ロシア、中国。



ギボシヒメグモ（雌）

北設楽郡設楽町、1988年8月10日、緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

広葉樹の葉裏に不規則網をはる。夜行性で網は早朝とりこわし、昼間は葉裏に潜んでいる。卵のうは白色球形で雌が保護する習性がある。

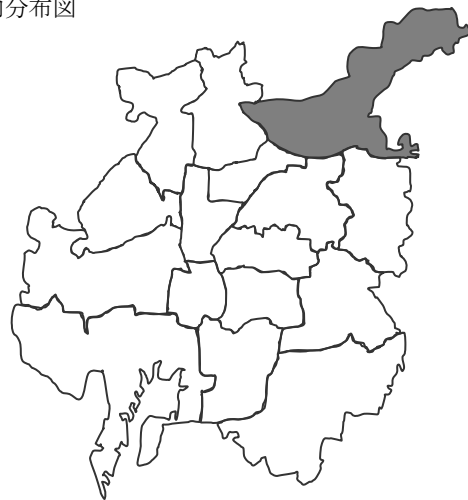
【現在の生息状況／減少の要因】

丘陵地の開発による林の伐採等で減少している。個体数の少ない種と思われるが、東部地域の自然度の高い環境においては、今後、発見される可能性がある。

【保全上の留意点】

山林などの生息環境を保全する。

市内分布図

**【関連文献】**

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.42, p.185. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.35. 保育社, 大阪.
小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 神奈川.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

ビジョオニグモ *Araneus mitificus* (Simon)

カテゴリー

【選定理由】

造網性のクモで、山林や林に棲む。もともと愛知県では個体数が少なく、特に市内では採集、観察例の少ない種であり注目に値する。

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 8.0～10.0mm、雄 5.0～6.0mm。背甲は明褐色、腹部上部は緑白色で前縁は黒色、前方には横向きの暗色の斑紋があり、中央付近には1対の黒点、後端には横一列に4黒点が並ぶ。歩脚は橙色で各節の末端に黒色環斑がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

千種区、守山区、昭和区、熱田区、西区に生息している。

【県内の分布】

豊明市、豊田市（旧足助町）、知立市等で記録されている。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

インド、マレーシア、フィリピン、台湾、韓国、中国、ニューギニア。

【生息地の環境／生態的特性】

多くは広葉樹の枝葉間に黄色の垂直円網のキレ網を張り、網の中央から呼び糸を引き先にある葉を丸めた住居に潜む。餌の昆虫などが網にかかると、呼び糸を伝わって捕獲する。捕らえた獲物は住居内で食べる。

【現在の生息状況／減少の要因】

主に公園や林に生息するが、個体数は少ない。もともと採集や観察例が少なく、一度確認された生息地においても毎年見られるわけではない。流動的な分布を示すようである。

【保全上の留意点】

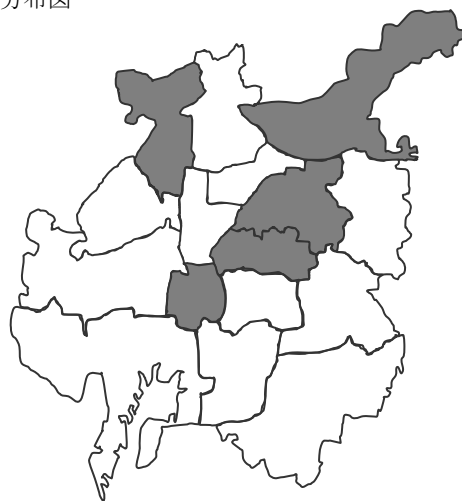
公園整備作業には樹木管理に配慮し農薬、除草剤等の散布には特に要注意。



ビジョオニグモ（雌）

千種区平和公園、2014年8月17日、柴田良成 撮影

市内分布図



【関連文献】

小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.457. 東海大学出版会，秦野.
千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.66,p.205. 偕成社，東京.
八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.100. 保育社，大阪.

（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

コガネグモ *Argiope amoena* L. Koch**【選定理由】**

草や木の間に円網を張り生息する全国的にもっとも普通なクモであったが、市内では特に減少傾向にある。生息適地である草地環境の減少が主な要因であろう。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 20.0～30.0mm、雄 5.0～7.0mm。
背甲は暗褐色で銀色の毛が多数生えている。
腹部上面には黄色と褐色の幅の広い横縞模様が美しい。鹿児島県加治木町のクモ合戦で有名。

【分布の概要】**【市内の分布】**

近年急速に減少しているが、守山区、中村区、港区、西区、中川区に見られる。

【県内の分布】

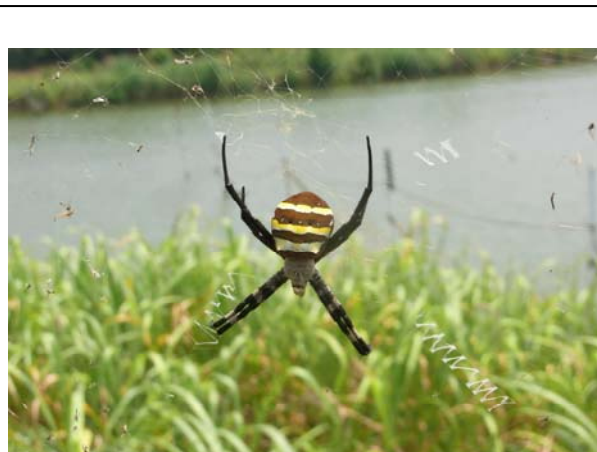
広く分布し、良好な環境があれば多産することがあるが、一般に減少傾向にある。

【国内の分布】

本州、四国、九州、南西諸島、薩南諸島、伊豆諸島。

【世界の分布】

台湾、韓国、中国。



コガネグモ（雌）

中川区戸田川、2014年7月2日、柴田良成 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

主に河原や草木の枝の間や軒下などに垂直円網を張り、X字状のかくれ帯（一部省略されることもある）を付け、その中央に止まる。一般に、日当たりのよいところに多い。網の近くに不規則に糸を引き、淡緑色の卵のうを吊す。

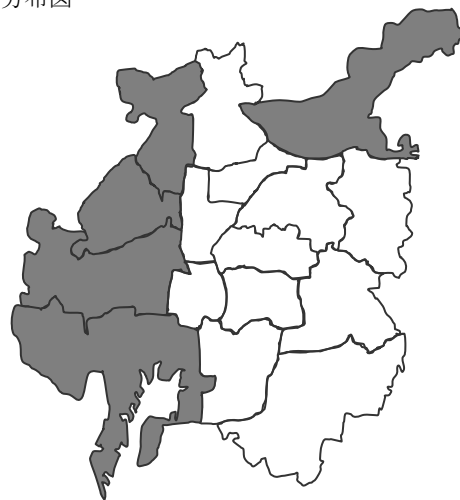
【現在の生息状況／減少の要因】

主に公園や林に生息するが、個体数は少ない種で、もともと採集や観察例が少なく、一度確認された生息地においても毎年見られるわけではない。流動的な分布を示すようである。

【保全上の留意点】

河川改修の整備工事などにより生息できる草地環境の減少が主な要因であろうが、他にも原因があるように思われる。

市内分布図

**【関連文献】**

小野展嗣（編），2009．日本産クモ類，p.425．東海大学出版会，秦野．
千国安之輔，1989．写真日本クモ類大図鑑，p.79,p.213．偕成社，東京．
八木沼健夫，1986．原色日本クモ類図鑑，p.113．保育社，大阪．

（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

オオトリノフンダマシ *Cyrtarachne akirai* Tanikawa**【選定理由】**

市内における生育適地の減少に伴い、分布地、個体数ともに急激に減少傾向にある。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

雌は体長10～13mm、雄2～2.5mm。背甲は褐色、腹部上部は黄色で前方両側には褐色の丸い斑紋が1対あり長さと同幅がほぼ同長。雄は極めて小さい。

【分布の概要】**【市内の分布】**

守山区、千種区に僅かに生息している。

【県内の分布】

豊田市（旧豊田市、旧稲武町、旧下山村）、東浦町等に広く分布するが減少傾向にある。

【国内の分布】

本州、四国、九州、薩南諸島、沖縄諸島、奄美諸島/。

【世界の分布】

インド、台湾、韓国、中国/。



オオトリノフンダマシ（雌）

千種区東山、2011年9月23日、柴田良成 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

主に山間部、丘陵地の道沿い、ススキや広葉樹の葉裏に脚を縮めて止まっている。夜になると、大型の荒い同心円状の水平円網を垂れて張り、餌としては主に蛾の仲間を捕らえる。

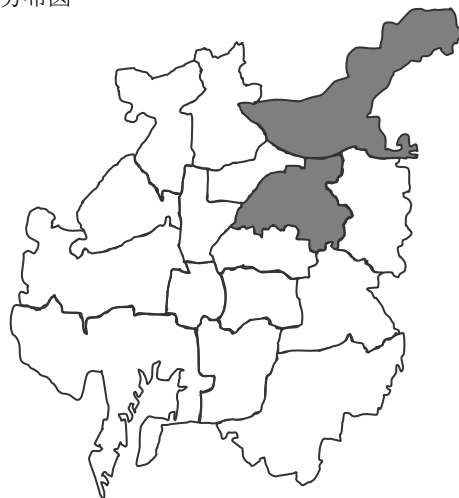
【現在の生息状況／減少の要因】

主に公園整備等により樹木の生息場所が失われることが大きな要因である。他に農薬の影響も考えられる。

【保全上の留意点】

整備工事や山林開発の際、ススキの原や疎林を残し生息環境の確保に配慮。千種区の平和公園に生息しているのは、僅かな疎林が残されているからである。ほかに農薬等の散布に注意する必要がある。

市内分布図

**【関連文献】**

小野展嗣（編），2009．日本産クモ類，p.427．東海大学出版会，秦野．
 千国安之輔，1989．写真日本クモ類大図鑑，p.82,p.216．偕成社，東京．
 八木沼健夫，1986．原色日本クモ類図鑑，p.109．保育社，大阪．

（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

トリノフンダマシ *Cyrtarachne bufo* (Bösenberg et Strand)

【選定理由】

市内における生息適地の減少に伴って、個体数も減少傾向にある。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	準絶滅危惧
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 8.0～10.0mm、雄 1.0～2.5mm。腹部は前方は灰褐色、後方は黄白色。前方両肩は灰褐色で隆起、その周辺は白い線で囲まれる。雄の腹部は扁平で黄褐色、褐色の斑紋がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

東部に残された二次林を中心に生息している。

【県内の分布】

豊田市、岡崎市等に広く分布するが、個体数は少ない。

【国内の分布】

本州、四国、九州、南西諸島。

【世界の分布】

台湾、韓国、中国。



トリノフンダマシ（雌）

千種区平和公園、2014年8月15日、柴田良成 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

昼間はススキや広葉樹の葉の裏に静止、夜間に荒い同心円状の垂れた水平円網を張り、餌としては主に蛾の仲間を捕らえる。

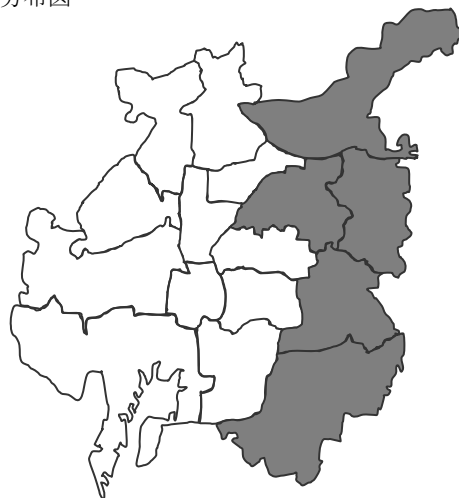
【現在の生息状況／減少の要因】

公園整備や開発に伴い生息適地の減少、ならびに農薬散布の影響などが主な要因と思われる。

【保全上の留意点】

主に公園整備工事などの際、生息に適した林地、草原を残す必要がある。農薬散布にも注意が必要である。

市内分布図



【関連文献】

- 小野展嗣（編），2009. 日本産クモ類，p.427. 東海大学出版会，秦野.
 千国安之輔，1989. 写真日本クモ類大図鑑，p.82,p.215. 偕成社，東京.
 八木沼健夫，1986. 原色日本クモ類図鑑，p.109. 保育社，大阪.

（執筆者 柴田良成）

クモ類 <クモ目 コガネグモ科>

スズミグモ *Cyrtophora ikomosanensis* (Bösenberg et Strand)

カテゴリー

【選定理由】

二次林などの樹木の枝や葉の間にドーム形の網を張る種である。市内では、このような生息環境が少なくなり、減少傾向にある。

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

雌の体長は18～23mm、雄は小さく3～5mmある。腹部の前方（両肩）に円錐状の突起があり、その前方は白い。後方はイナズマ状の美しい斑紋がある。斑紋の色は個体によって違い、褐色、緑色、黒色、赤色などまちまちである。また、斑紋の形も少しずつ違っている。第4脚の腿節が赤い。

【分布の概要】

【市内の分布】

東部の守山区、千種区、昭和区、緑区の森林が多く残っている地域や熱田区の熱田神宮林内に生息している。

【県内の分布】

刈谷市、豊明市、豊橋市、東浦町等県南部に広く分布するが、局地的な傾向がある。

【国内の分布】

本州（埼玉県・千葉県以南）、四国、九州、南西諸島/。

【世界の分布】

インド、台湾、オーストラリア、中国

【生息地の環境／生態的特性】

樹間に、直径30～80cmほどの特徴のあるドーム状絹網を張り、上下に不規則な糸を引く。雄の網もドーム状であるが小さく5cmほど、雌の網の中や葉の裏などに張る。

【現在の生息状況／減少の要因】

市内に点在した二次林などが開発によって減少し、生息に適した場が失われたことが減少の主原因と考えられる。

【保全上の留意点】

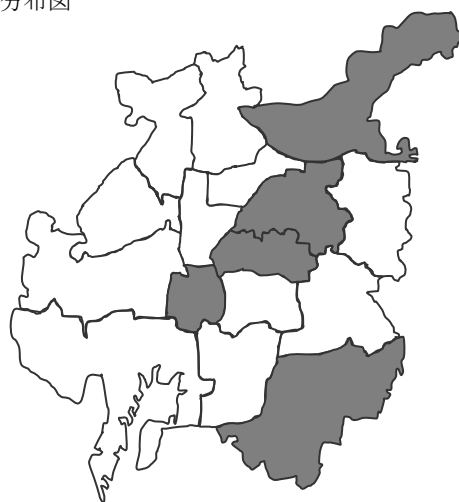
開発に際して、二次林を残す工夫が必要である。また、公園などでは、殺虫剤の散布に注意する必要がある。



スズミグモ（雌）

緑区大高緑地、2000年7月30日、緒方清人 撮影

市内分布図



【関連文献】

- 千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.81,p.214. 偕成社, 東京.
 八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.117. 保育社, 大阪.
 小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 フクログモ科>

ハマキフクログモ *Clubiona japonicola* Bösenberg et Strand**【選定理由】**

徘徊性のクモで、主に、池沼やその周辺の草原に棲む。そのため、開発の影響を受けやすく、生息環境の悪化により激減した。フクログモ属で水辺に依存する種は少なく、本種は注目に値する。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 8～9mm、雄 5～6mm。背甲は黄褐色で頭部前方にいくにしたがい黒褐色となる。腹部は黄褐色で白色の短毛におおわれる。歩脚は黄褐色。

【分布の概要】**【市内の分布】**

西区、天白区、昭和区、北区。

【県内の分布】

旧豊田市、岡崎市、豊明市等に分布する。

【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州。

【世界の分布】

東アジア一帯。



ハマキフクログモ（雌）

豊明市沓掛町、2002年5月5日、緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

主に池沼、湿地帯、河川などの水辺に生息する。雌は大型草本類のマコモ、ガマなどの葉先を三つ折りに曲げて産室をつくり、その中で産卵し卵のうを保護する。

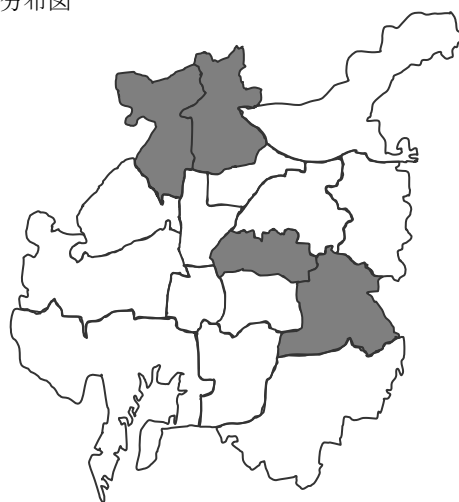
【現在の生息状況／減少の要因】

市内では局地的に分布しているにすぎない。開発等により池、湿地などが減少し生息場所が失われたことが大きな要因である。

【保全上の留意点】

水辺の環境を保全し、生息区域での農薬、除草剤等の散布には注意する必要がある。

市内分布図

**【関連文献】**

千国安之輔, 1989. 写真日本クモ類大図鑑, p.123, p.257. 偕成社, 東京.
八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.179. 保育社, 大阪.
小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 ワシグモ科>

ヒゲナガツヤグモ *Micaria dives* (Lucas)**【選定理由】**

徘徊性のクモで、河川敷や草地などに棲む。市内では観察、採集例も少なく、もともと個体数の少ない種と思われる。近年、開発等の影響で生息地が狭められている。

カテゴリー

名古屋市2015	準絶滅危惧
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 2.5～4mm、雄 2～3.5mm。背甲は濃紫色で頭部前方にいくにしたがい紫色や藍色に輝く。腹部上面は艶のある濃紫色で、光線の角度によっては、一部が黄金色、藍色、紫色、赤色等に輝く。

【分布の概要】**【市内の分布】**

緑区に生息している。

【県内の分布】

豊田市（旧豊田市）、知立市、安城市、日進市、豊橋市等に分布する。

【国内の分布】

本州に分布するが、個体数は少ない。

【世界の分布】

旧北亜区。



ヒゲナガツヤグモ（雌）

緑区鳴海町、2000年7月3日、緒方清人 撮影

【生息地の環境／生態的特性】

主に、草地の地上を徘徊する。動きが俊敏で、一見するとアリに見間違ふ。5～8月にかけて成体になり、雌は石や土のすき間などに、直径3mmほどの卵のうを数個産みつける。

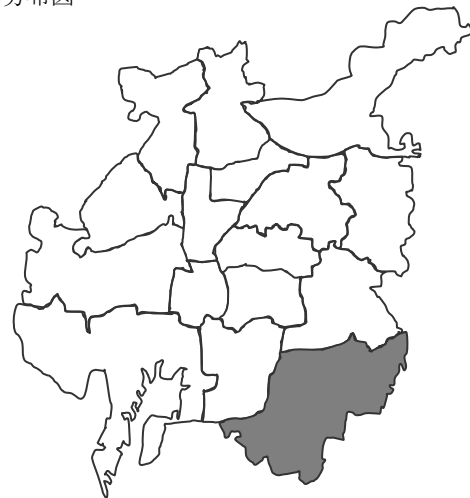
【現在の生息状況／減少の要因】

市内では緑区で確認されただけである。現在、発見された生息地は住宅地になり、その後の生息は不明である。微小で動きが速いため観察、確認されにくい、他の場所で発見される可能性はある。

【保全上の留意点】

河川敷、草原などの生息環境の保全をする。生息区域での農薬、除草剤等の散布には注意する必要がある。

市内分布図

**【引用文献】**

加村隆英, 2002. ワシグモ科 Gnaphosidae (その5). くものいと, 32:23-25.

【関連文献】

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.17. 保育社, 大阪.
小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類. 東海大学出版会, 秦野.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 アシナガモ科>

チビクロドヨウグモ *Meta nigridorsalis* Tanikawa

カテゴリー

【選定理由】

全国的に見ても確認された県は少ないが、本市では分布域や生態など不明な点が多く情報不足と判断した。

名古屋市2015	情報不足
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌約 5.5 mm、雄約 4.5mm。全体に艶があり、頭胸部は黒褐色で頭部は黒色。腹部背面は黒褐色で縁に 3~4 対の瘤がり、波打っているように見える。4 脚とも黒褐色で腿節に茶褐色の環がある。

【分布の概要】

【市内の分布】

熱田区で 2012 年 7 月 23 日に雌雄が採集された。その後も、同地で 2014 年 5 月までに延べ 3 回確認された。

【県内の分布】

上記の熱田区熱田神宮の記録が唯一である

【国内の分布】

三重県熊野市の標本を模式とし、1994 年に新種記載された (Tanikawa, 1994)。現在は和歌山県、岡山県、広島県、島根県、島根県、香川県、徳島県、佐賀県、熊本県、鹿児島県で記録されている (新海ほか, 2012)。

【世界の分布】

日本固有種。

【生息地の環境／生態的特性】

筆者の観察では暗部を好み、三重県では石垣や崖地の窪み、和歌山県では朽ち木の空洞部に生息していた。水平円網の直径は 9~13cm で本属では小型である。

【現在の生息状況／減少の要因】

極めて狭い範囲に 10 頭前後が生息していると思われる。

【保全上の留意点】

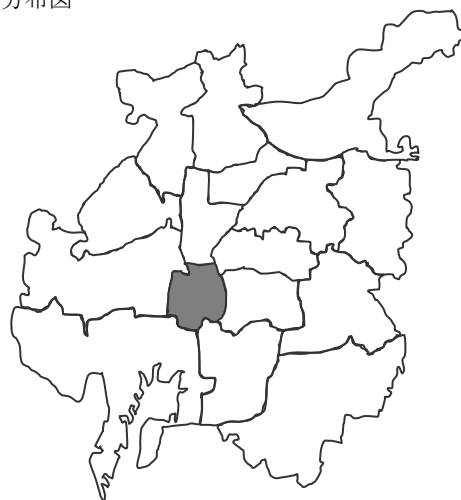
伐採木が山積みされたすき間に棲んでいるので、今後もその環境が保全されることが望まれる。



チビクロドヨウグモ (雌)

熱田区熱田神宮、2012 年 7 月 23 日、緒方清人 撮影

市内分布図



【引用文献】

Tanikawa, A., 1994. A New Species of Spider Genus *Meta* C. L. Koch, 1836 (Araneae: Tetragnathidae) from Japan. *Acta Arachnologica*, 43(1):65-69.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2012. CD 日本のクモ. 自刊.

緒方清人, 2012. 愛知県のクモ目録追加種 (IV). 蜘蛛, 45:14-16. 中部蜘蛛懇談会.

【関連文献】

小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類, p.407. 東海大学出版会, 秦野.

新海栄一, 2010. 日本のクモ, p.173, 文一総合出版, 東京.

(執筆者 緒方清人)

クモ類 <クモ目 スオウグモ科>

ムロズミソレグモ *Takeoa nishimurai* (Yaginuma)

カテゴリー

【選定理由】

全国的に見てもたいへん珍しいクモであるが、不明な点が多いので情報不足と判断した。

名古屋市2015	情報不足
愛知県2015	情報不足
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌雄ともに 11mm。腹部は長く一見コモリグモのようである。体全体、やや赤味を帯びた黄褐色である。頭胸部は中央と側縁の間に黒色の不規則な 2 縦条がある。胸板は周縁が赤褐色で中央部が淡色になり黒や白い毛が混生している。腹部背面は黒や褐色や白い毛が混生し、中央に淡色の不明瞭な矢筈斑がある。第 4 脚蹠節の上方□位のところに、群集した毛櫛(群)があるのが特徴である。

【分布の概要】

【市内の分布】

天白区で採集(1977 年 5 月 1 日)された。

【県内の分布】

上記の名古屋市天白区の記録が唯一である。

【国内の分布】

1962 年山口県光市室積町で雌が、同年京都市伏見区で雄がそれぞれ 1 頭ずつ記録された。さらに、兵庫県、島根県隠岐島、大阪府で各 1 頭ずつ採集されただけ、名古屋市のものは、国内 6 頭目にあたる。近年(2010)、奈良県で雄雌合わせて 3 頭が見つかった。

【世界の分布】

今のところ日本固有種であるが不明な点が多い。

【生息地の環境／生態的特性】

山口県の雌は放置されたレインシューズ上に産み付けられた孵化した子グモ近くで、京都市の雄は座敷上、名古屋市の雌はアパートの便所で採集されている。生態は不明。屋内での発見が多いが体型からみて野外の地上徘徊性ないし狩猟性と想像される(小野, 2009)。

【現在の生息状況／減少の要因】

まったく不明である。

【保全上の留意点】

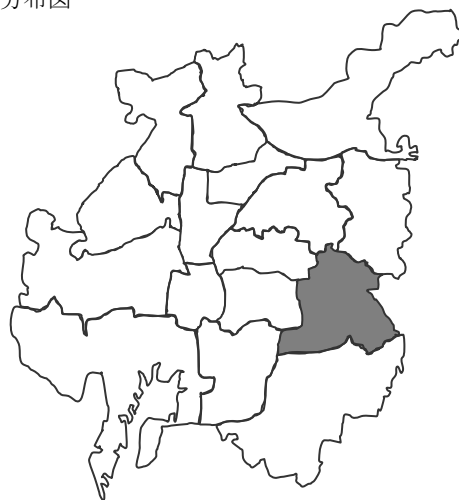
情報が十分でないので、今後も注意して情報収集に努める必要がある。



ムロズミソレグモ

(「愛知の動物」(1984, 愛知県郷土資料刊行会)より転載)
天白区八事山田、1977 年 5 月、八木沼健夫 撮影

市内分布図



【引用文献】

- 八木沼健夫, 1963. Zoropsidae のクモ日本の Fauna に入る. *Acta Arachnologica*, 18(1):1-6.
八木沼健夫, 1977. 分布資料. *Atypus*, 69:39.
須賀瑛文, 1984. 真正蜘蛛類 愛知の動物, pp.41-62. (株)愛知県郷土資料刊行会, 名古屋.
荒川真, 2011. 奈良県産のムロズミソレグモとマダラヒメグモ. くものいと, 45:14-17.
小野展嗣(編), 2009. 日本産クモ類, p.141. 東海大学出版会, 秦野.

【関連文献】

- 八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.17. 保育社, 大阪.

(執筆者 須賀瑛文)

クモ類 <クモ目 カニグモ科>

シロスジグモ *Runcinia affinis* Simon**【選定理由】**

本市では千種区と西区で確認されているが、分布域や生態など不明な点が多く情報不足と判断した。

カテゴリー

名古屋市2015	情報不足
愛知県2015	リスト外
環境省2014	リスト外

【形態】

体長雌 4.5～6mm、雄約 2.9～3.5mm。頭胸部は淡黄褐色で両側に1対の濃褐色の縦条がある。また、背甲中央に淡色の縦条がある。腹部背面は黄褐色で側縁は濃褐色で4～5対の細い縦筋がある。雄もほとんど雌と同様だが、眼域に白色の横条がある。また、第1・2脚が体長の約2.5倍と非常に長い。

【分布の概要】**【市内の分布】**

熱田区と西区で採集（2012年7月23日）された。

【県内の分布】

沿岸部から平野部に分布する。常滑市、日進市、知立市、豊橋市で記録されている。県内では、近年採集記録が増えている。

【国内の分布】

本州（千葉県以南）、四国、九州、南西諸島。

【世界の分布】

アフリカからアジアにかけて広く分布する。

【生息地の環境／生態的特性】

筆者の観察では暗部を好み、三重県では石垣や崖地の窪み、和歌山県では朽ち木の空洞部に生息していた。水平円網の直径は9～13cmで本属では小型である。

【現在の生息状況／減少の要因】

千種区平和公園と西区庄内緑地で確認されているが、個体数は少ない。

【保全上の留意点】

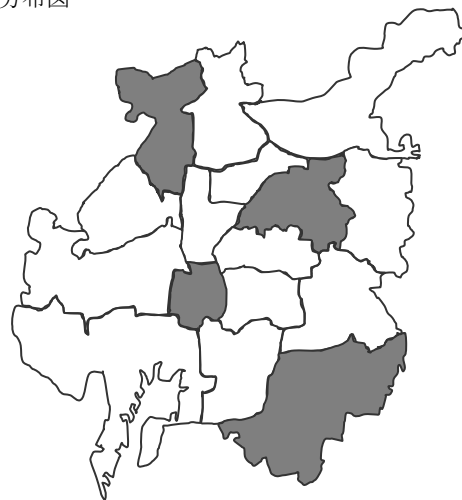
河川敷や草地に生息する。本市では適当な草地が土地開発によって減少傾向にある。今後、注意深い調査と、環境保全が望まれる。



シロスジグモ（雄）

千種区平和公園、2008年7月12日、緒方清人 撮影

市内分布図

**【引用文献】**

Ono, H., 1988. A Revisional Study of the Spider Family Thomisidae (Arachnida, Araneae) of Japan. *National Science Museum monographs*, 5:1-252.

新海 明・安藤昭久・谷川明男・池田博明・桑田隆生, 2012. CD 日本のクモ. 自刊.

緒方清人, 2012. 愛知県のクモ目録追加種 (IV). 蜘蛛, 45:14-16. 中部蜘蛛懇談会.

【関連文献】

小野展嗣 (編), 2009. 日本産クモ類, p.407. 東海大学出版会, 秦野.

八木沼健夫, 1986. 原色日本クモ類図鑑, p.158. 保育社, 大阪.

新海栄一, 2010. 日本のクモ, p.173. 文一総合出版, 東京.

(執筆者 緒方清人)

